

あゆみ通信

VOL. 181

あゆみの会(真宗大谷派大阪教区第2組同朋の会推進員連絡協議会) 会長 細川 克彦 広報 本持 喜康

第1回例会実施



2024年3月23日(土) 午後1時30分から、天候不順ではありましたが、天王寺区の光照寺(墨林浩住職)をお借りして、あゆみの会第1回例会が開催され、9名のご参加をいただきました。

当日は、事務局・本持(即應寺)の進行で開会、真宗宗歌を斉唱し、続いて細川克彦会長(佛足寺)から開会の挨拶がありました。引き続き、講師の上場直裕先生(教区駐在教導・生野区圓徳寺)から、講題「濁世を生きる」と題してお話をいただきました。先生は、蓮如上人と親交のあった一休さんの「正月や、冥途の旅の一里塚、めでたくもあり、めでたくもなし」を紹介されながら、世の無常を示されていると。また、『歎異抄』の「念仏者は無碍の一道なり」(第7章)という親鸞聖人の言葉を引きながら、「無碍」についてさまざまげがないという意味ではなくて、さまざまを超える念仏者であると説明されました。

最後に、あゆみの会のこうした聞法会も、お彼岸の仏事も目印(一里塚)。

そこで確かめることが必要になります。日頃毎日、お念仏をしてくださいと言うお願い事ですが、そういう私を確かめる目印、そこから私と言うものを考えていく、生きていく。それが濁世を生きるということではないかと、話していただきました。



休憩後は、あゆみの会恒例の、先生を囲んでの座談となり、吉田雄彦副会長(法山寺)の進行で、「生きる」とは、どういうことかを、参加者に問いかけ、それぞれから、思い思いの発言がありました。終わりに、上場先生からは、座談が各人の真剣な発言で取り組まれていることに驚いているとのコメントをしていただき、恩徳讃を斉唱して閉会しました。(法話要旨は、別項で)

● 次回は、日程など詳細は未定ですが、6月に第2組青年僧組織の「朋友会」との合同研修会を予定しています。具体的に決まりましたら、お知らせいたします。

第2組聞法会5月

日時 5月13日(月) 14:00
会場 宗恩寺(天王寺西天王寺)
講題 初めての正信念仏偈2
講師 大橋恵真先生
(18組 遠慶寺住職)
参加費 500円

親鸞のことば

仏となる身として 現世を生きる

現生に正定聚のくらしに住してかならず 眞実報土にいたる

浄土三部経往生文類

浄土真宗の教えは、「本願」「念仏」「浄土」「往生」「凡夫」などをキーワードとして語られます。

その中の「往生」について述べたのがこの言葉になるでしょう。「現生」とは現世、私たちが生きているこの世界のこと、「正定聚」とは必ず仏となる身と言うことです。

親鸞は眞実の往生を語る時、それを命終えてからだけのこととせず、現生で正定聚として生きることを大切にしたのです。

(名古屋別院監修「人生を照らす親鸞の言葉」より)

共に歩み共に生きる

あゆみの会のお仲間も、仏弟子として、親鸞聖人の教えを共にするお仲間です。

2004年に母をおくり、そのご縁で即應寺に行くようになって、ご門徒とのお付き合いもない中から数年。2011年の宗祖親鸞聖人750回御遠忌法要お待ち受けを期に、第2組(阿倍野界隈の寺22寺)で10年ぶりに開催された2期推進員養成講座に、善隆住職(当時)に背中を押されて参加したのが2007年でした。そして翌2008年6月、6カ寺18名のお仲間と本山研修を修了。同年12月に有志が集まり1期の先輩と「あゆみの会」(組推協)が、第2組に誕生しました。

以後、第3期、第4期養成講座のお仲間とともに、第2組のご住職や坊守さん、門徒会の皆さんのお力を借りて、ここまで来られたことに感謝です。今日では、会員の高齢化と言う最大の危機を抱えて、これからの寺院や第2組、あゆみの会をどう進めていくのかと言う分水嶺にきています。相続を模索しながら、歩みを止めずに、力を合わせて共に歩んでいきたいと願っています。合掌。(本)

第2組人權研修会

日時 6月13日(木) 14:00
会場 宗恩寺(天王寺区四天王寺)
内容 ハラスメントについて
参加費 無料

第2組聞法会7月

日時 7月16日(火) 14:00
会場 唯専寺(浪速区敷津西)
内容 初めての正信念仏偈3
講師 宮部 渡先生
(15組 西稱寺住職)
参加費 500円

如是我聞 上場直裕先生法話聞書 細川克彦(佛足寺)



上場先生は「濁世を生きる」という講題でお話くださいました。

「五濁」について、「劫濁」は時代の濁り、「煩惱濁」は人間の煩惱による濁り、「衆生濁」は、例えば人間関係が希薄になったりとか、「命濁」はたとえば自殺や安楽死、また遺伝子操作とかがあげられるが、なかでも「見濁」、偏った見解を持つことによる濁りが特に大きいと言われました。

『真宗聖典』にも、「一切悪行は邪見なり。一切悪行の因、無量なりといえども、もし邪見を説けばすなわち既に摂尽しぬ」(真宗聖典352P)と書かれていると。

今の時代は愛味と言うことを許さず、分別で何でもはつきりさせようとしている。分別とは境界線を引いたり、切り捨てることであり、そのために悲惨な出来事、例えば虐待死とかが生まれてきているのではないかと。



自分は正しく見ていると思っても、実は見えていないことも多いのではないかと。

そして先生は、見ることで外に「聞く」と言うことが大事であると話されました。

親鸞聖人は「聞きがたくしてすでに聞くことを得たり」(真宗聖典150P、『教行信証』総序の文より)と言っておられる。「聞く」と言うことは受動的であり、受け止めたと言うことであると。

真宗の教えは本願の呼びかけであり、濁っていると感ずるのは、光が届いている人の感覚である。「濁世」を作っているのは自分であると気付かされた時、「どう生きていくのか」という問いが起ると。



お彼岸とか永代経とか、報恩講とか聞法の場合は、自分の在り方を確かめていく大事な道しるべ、目印であると話されました。

新刊紹介

31の味わい お寺の掲示板

東本願寺出版 定価935円(税込)
僧侶が選んだ法語について優しくつづられた31の法語を収録。即應寺の藤井善隆前住職も執筆されています。



新会員紹介

木村正恒さん(光照寺)

去る3月23日に光照寺で行われた第1回例会にご参加いただき、あゆみの会にご加入いただきました。木村さんは、古くからの



光照寺のご門徒で、第2組や門徒会の仏事に積極的にご参加され、顔なじみのお仲間です。どうぞよろしくお願ひいたします。

お知らせ 大阪教区主催

第14回全推進員のつどい
テーマ 同朋の会をひろめよう
～住職とともに考えよう～

日時 5月11日(土) 13:30
会場 難波別院本堂
講師 延塚知道先生
(大谷大学名誉教授・

九州教区田川組昭光寺住職)
持ち物 勤行本、念珠、略肩衣
参加費 無料

申込 お手次の寺院に4/5まで

第17回同朋大会

テーマ 私たちは何を求めて生きているのだろうか

日時 6月15日(土) 10:00
会場 難波別院 本堂
講師 藤井慈等先生
(三重県松坂市慶法寺前住職)

参加費 1000円
申込 お手次の寺院に、参加費を添えて申し込む

大推協公開講座

大阪教区同朋の会連絡協議会(略称大推協・会長細川克彦)で聞法活動として公開講座が下記の通り開催されます。皆さまのご参加をお待ちしています。

日時 6月11日(火) 14:00~
会場 難波別院同朋会館講堂
(地下鉄御堂筋線「本町駅」③出口から南へすぐ)
講題 「生死出べき道」としての浄土真宗
講師 加来雄之先生
(親鸞仏教センター主任研究員)
参加費 無料